

交通遺児育英会機関紙

©平成17年7月15日発行
発行・財団法人交通遺児育英会
〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
(H P) http://www.kotsujiji.com

君とつばさ



「海外語学研修」スタート

16年度事業・決算報告を承認

財団法人交通遺児育英会の17年度第2回臨時理事会と第73回評議員会、理事会が6月1日、東京都内で開かれ、16年度事業報告と収支決算報告を承認した。新規事業として高校奨学生をイギリスに派遣する「海外語学研修」がスタートしたほか、懸案の「関西学生寮」も開設が決まり、17年度から寮生を受け入れることになった。

懸案の「関西学生寮」開設決まる

「事業報告」
1、奨学生の採用
新規採用者は、高校309人、大学218人、大学院15人、専修学校93人、各種学校1人の計636人。
返還金の総額は11億9445万円。重点課題として不良債権の整理と長期滞納者への督促に力を注ぎ、重度心身障害による労働不能者7人を返還免除とした。
3、奨学生の補導
「高校奨学生と保護者の関係会」は、宮城、四国4県、神奈川、岡山、沖縄県で開いた。四国は初の合同開催。5会場の平均参加率は、専修学校66人、各種学校1人の計411人。奨学金、一時金の貸与総額は1億3930万円だった。
返還金の総額は11億9445万円。重点課題として不良債権の整理と長期滞納者への督促に力を注ぎ、重度心身障害による労働不能者7人を返還免除とした。
3、奨学生の補導
「高校奨学生と保護者の関係会」は、宮城、四国4県、神奈川、岡山、沖縄県で開いた。四国は初の合同開催。5会場の平均参加率は、

理事會
返還、学校・家庭生活、学...
生寮など多岐にわたった。
高校奨学生に国際的視野と感覚を身に付けてもらうため、新規事業として「海外語学研修」をスタートさせた。作文と面接審査で選んだ29人を夏休みの24日間、イギリスのソールズベリーに派遣。ホームステイは38・0%。相談内容は、進学・就職、奨学金の貸与・



「背伸びせず、自分の言葉で」
心塾でスピーチ講座始まる
東京の学生寮「心塾」の17年度新設講座、スピーチ講座が6月23日開講した。来年1月までの4回にわたって「コミュニケーションの秘訣」を説き明かす。講師は本会奨学生OBで元NHKキャスター、現在フリーアナウンサーの宮本潤子さん。
1回目のテーマは「話すとは」。宮本さんは「人前

5、資金造成
寄付金収入は、予算3億円に対し2億3409万円。国内外で大災害が発生したため、それらの被災地に寄付金を配分する動きがあったのが未達成の要因。
6、機関紙の発行
『君とつばさ』は5回発行。10月1日付の第266号は「つどい」と初の海外語学研修の特集のため、8ページに増ページした。
7、新長期計画の推進
奨学生増加対策の一つ、地方大都市圏での学生寮経営については、首都圏に次いで自宅外通学生が多い関西地区で、民間経営の寮を賃貸契約して活用する案が

「この世には御定法では罰することのできない罪がある」。山本周五郎が『五辨の橋』で問いかけたテーマだ。法で裁くことができない罪とは『五辨の橋』は、最愛の父が死んだとき、自分が父の妻子ではなく、母が不義をはたらいてきたことを知った主人公おしのが、母を殺し、母の男たちの胸に銀のかんざしを打ち込んで、枕元に赤い山椿の花びらを残していく、というミステリー仕立ての小説『時は江戸後期。不義密通は大罪だったが、おしのが自らの手で裁こうとした5人の男たちは、法の網から漏れ、いまでも人をたまし苦しめている者ばかり。18歳のおしのにとっては、最愛の父をはずかした許せない男たちだった▼法で裁くことができない罪。現代社会にはないのだろうか。たとえば教室で、からかう、ひどい言葉や物を隠すなどのいじめ。やる側は遊びかもしれないが、やられる方は「殺してやりたい」と思うほどの傷を心に負う▼いじめを定義づけるのは難しい、現象面から把握することも困難だ。自殺や事件が起き、その原因を探ってみて、初めて裏にいじめがあったことがわかるケースが多い▼おしのは、5人目の実の父は殺さなかった。「その人の罪は、御定法で罰せられない」とすれば、その人自身でつぐなうべきものだ」ということに気づいたからだ。法で裁くことができない罪があること。いじめを考えるヒントにならないだろうか。

今年度の予約採用は444人
少子化が響き高校生大幅減

交通遺児育英会は、16年度中に本会奨学生として予約決定していた人たちで、この春高校、大学等に入学した444人の本採用を決定し、6月1日付で通知した。
本採用になったのは、高校197人、高専2人、大学125人、短大23人、専修96人、各種1人で、前年同期に比べ50人減。高校・高専は生徒数の漸減傾向を受けて大幅に減少。増加傾向に歯止めがかからない高

あしながおじさん Q&A

奨学金返還のお問い合わせは返還課へ

卒業、就職して落ち着くこの時期、奨学金の返還に関するお問い合わせが多く寄せられます。
Q お陰さまで卒業できましたが、返還の仕方を教えてください。
A 返還は卒業して半年経過後から始まります。月賦(毎月半年賦(6月、12月)年賦(12月)いずれかの方法で、20年以内にお返しください。月賦の場合、返還金の最低額は借入額を240で割った金額です。
Q 一括返還できますか。
A できます。払込用紙をお送りしますので、返還課(フリーダイヤル0120-1521287)までご連絡ください。
Q 就職して住所が変わりました。
A 返還課にご連絡した手続きができます。



船を追って、手の届きそうな近くを飛ぶウミネコ(北海道天売島で) =写真家田村允人氏撮影

つどい開催
8月20〜22日 千葉県
相談会開催
9月東北3県
11月兵庫県
12月千葉県

「この世には御定法では罰することのできない罪がある」。山本周五郎が『五辨の橋』で問いかけたテーマだ。法で裁くことができない罪とは『五辨の橋』は、最愛の父が死んだとき、自分が父の妻子ではなく、母が不義をはたらいてきたことを知った主人公おしのが、母を殺し、母の男たちの胸に銀のかんざしを打ち込んで、枕元に赤い山椿の花びらを残していく、というミステリー仕立ての小説『時は江戸後期。不義密通は大罪だったが、おしのが自らの手で裁こうとした5人の男たちは、法の網から漏れ、いまでも人をたまし苦しめている者ばかり。18歳のおしのにとっては、最愛の父をはずかした許せない男たちだった▼法で裁くことができない罪。現代社会にはないのだろうか。たとえば教室で、からかう、ひどい言葉や物を隠すなどのいじめ。やる側は遊びかもしれないが、やられる方は「殺してやりたい」と思うほどの傷を心に負う▼いじめを定義づけるのは難しい、現象面から把握することも困難だ。自殺や事件が起き、その原因を探ってみて、初めて裏にいじめがあったことがわかるケースが多い▼おしのは、5人目の実の父は殺さなかった。「その人の罪は、御定法で罰せられない」とすれば、その人自身でつぐなうべきものだ」ということに気づいたからだ。法で裁くことができない罪があること。いじめを考えるヒントにならないだろうか。



# 東京の学生寮「心塾」に入塾して

武蔵野大1年 玉澤 伶奈 東京外大1年 小笠原宇峰

心塾での生活がもう2カ月たちました。最初は新しい環境での生活に戸惑いを感じ、不安になったり、親や地元友達と離れホームシックになったりもしました。しかし、いまではすっかり慣れて、毎日楽しく塾生活を送っています。

心塾の1日は朝6時15分から始まります。20分までに全員イベントホール前庭に集まって点呼を行います。40分まで掃除をします。朝起きるのが早くてしんどい

## 文章講座やスピーチ講座

### 一人前に鍛えてくれるところ

心塾には、入塾式や卒塾式など、いくつかの年中行事があります。これらの年中行事は全部、塾生自らに

## 形成される基本的人間性

### 集団生活ならではの利点あり

入塾後に行われたオリエンテーションで、心塾の成り立ちや目的を知った。社会に出たとき、少しでも困難がないように、さまざまな問題に柔軟に対応できるように社会性、知識を身につけることが目的である。それを達成しようと、自分たちのためにスピーチ講座や文章講座を企画して

## 読書感想文って何？

心塾講師 井谷 昌喜



## 芯を最初に決める

### 好奇心をピリッと効かして

03年4月、課題図書による読書感想文の講評をお引き受けし、以来、課題図書『すてきな文庫』は11冊を数えました。

たものの、私は「ちょっと無理な注文をしたかな」と内心、思ったものです。しかし、65人の塾生から提出された感想文を読んだとき、なぜ生まれたのか、ピリッと効かして

斜に構えて真正面から取り組む真摯さに欠けていた。乱暴な推論で強引に結論に導くような傾向が見られたのです。逆に、常に平均点以上の



## 東京ドームで巨人戦観戦 奨学生30人、好試合に歓声

読売新聞社が東京ドームの巨人戦にちびっ子やボラ

を生かして4点を取り、快勝した。1塁側スタンドに陣取った高校、大学、専門学校生は、工藤投手が三振を取った

## 6種目に熱戦を展開



心塾恒例のスポーツフェスティバルが6月19日、富士電機体育館で行われた。

せー俺の筋肉。パレー、ドッジ、障害物競争、長縄、しっぽとり、リレーの6種目で、チームも赤、白、青、黄、黒に分かれて優勝を目指した。各種目とも接戦、最後まで手に汗握る熱戦を展開したが、総合優勝は青組だった。

進学・就職・奨学金 困りごとは電話相談へ 0120-521219





小雨に煙る上野駅を発車したスーパーひたち15号は常磐線をひた走り、利根川を越えて千葉から茨城へ。車窓に移り変わる緑の山野、田に遊ぶ白鷺の姿に目を奪われている間に太平洋が見え、やがて福島に入った。

# お母さんただいま奮闘中

## いわき市 塩 陽子さん

トンネルをいくつもくぐり、2時間余りで目的地のいわき駅に到着。駅前まで車に乗り換えた。市街地を通り抜け、山間のくねくね道を約20分走ると、奨学生のお母さん・塩陽子さん(48)の縫い工房「楽今日(らっきょう)」があった。



縫い工房「楽今日」で仕事に励むお母さん

### 楽しく着心地いい スローファッション

自宅玄関わき8畳の間がお母さんの仕事場。手前には作業台、窓際に職業用ミシンとロックミシン、奥にアイロン台、中央に応接テーブルが置かれ、製図パターンのケースや生地棚もある。壁には絵が並び、窓外の緑の木々が風にそよいで、個性的なファッションを生み出す縫い工房にふさわしい雰囲気が漂っている。

### 好みの服、お手ごろ 値段で最高の仕上げ

5月31日の朝、山肌を抱かれた静かな縫い工房「楽今日」を訪ねると、サーモンピンクのカットソーにジーンズ、エプロン姿のお母さんに、「さあどうぞ」と招き入れられた。ちょうど作業台の上には、デザイン画と型紙をばいばいデザイン画と型紙を広げて、ラジオの音楽を聞きながら、定規と鉛筆を手に着物スリッパ型アラウスにパターン作りをしている最中だった。傍らの職業用ミシンの前



作品のジャケット、カットソー、ロングスカート



草野さんと縫製のポイントを確認

縫製のプロ・草野さんでも時折、お母さんの確認を取る。「ウエストの重なり部分が仮縫いの時、はいた感じがきつめだったので、3センチのところを2センチに」。指示しなす。

お母さんの作品が世に出たのは、たまたま縫ったカットソーなどが、「こんなのがほしかった」と知人に評され、楽しい着心地と優れたデザインが人気になったことから。いまでは「これぞスローファッション」とうわさを呼んで、「茶房・薬(わら)」と近所の美容室に作品を展示、販売するまでになった。

### 素直な「はい」の一言 初のデートで彼が感動

ご主人の塩富夫さんとお母さんは、お見合いで結婚は先で遊び、夏にはホテルが飛び交う山里で、イメージを膨らませ、時代の先端を行くデザインを生み出すお母さんの不思議は、過去の仕事に裏打ちされている。高校卒業後、福島県内の



茶房・薬で、展示品を手に薬谷さんと検討



尊敬する薬谷さん(右)と憩うひととき

### JR事故で無念再び 娘と温泉へ行きたい

人生、一寸先はわからない。平成2年12月27日の仕事納めの日、夫は普通トラックで走行中、前から来た大型トラックと衝突。さらには大型トラックに追突される悪夢のような事故で亡くなった。

と「帰ってこないかな」と夫を待っていた。実家の母ムスさんが心配して泊まりに来てくれた。2年が経過したころ、これから先、塩家総本家としての面目を保ち、墓を守り土地を守るのは、自分が頑張るしかない気がした。そこで選んだのが化粧品品の訪問販売の道だった。夜の営業が多いこの仕事、夕食の支度はバスケットボールの部活で帰りが遅い中学生の磨美さんではなく、幼い司君だった。司君には小1で炊飯器のご飯炊き、小2の時は卵焼き、小3ではフーメンが作れるように教えた。親子3人で力を合わせて苦境を切り抜け、あれから15年が過ぎた。その月日も、夫を亡くした日のことを、お母さんの脳裏から薄れさせることはなかった。JR福知山線の脱線事故の映像は、無念を強くよみがえらせた。成人した磨美さん(26)は東京で働きながら介護福祉士の道を目指し、司君も現在高校3年生(17)で、地元大学の進学する道を選ぼうとしている。趣味は旅行というお母さんだが、「海外旅行は、カメラ屋を経営していた叔父のツアーの手伝いや縫製会社の研修、ハワイへの新婚旅行で行っているのもうまい。これからは娘と一緒に温泉旅行を楽しみたい。」このところ少額の宝くじがよく当たるといってお母さん。「運が上向いているとき、縫い工房に『楽今日』の名を付けました。私のスローファッションを多くの人々が楽しく着て、喜んでほしい。思いはみんなの心に届くことを。」

# 奨学生のコーナー

園田学園高校 (兵庫県) 2年 長谷川 真理

わたしは高校生活の最初の1年で将来の夢を見つけた。それは洋菓子職人になることです。学校の授業で将来のやりたい仕事などを探すことがあり、夢を見つけたことができました。

## わたしの夢 洋菓子職人

夢を実現するには、専門学校がそのような学科がある大学に行かなければなりません。園田学園大学には「国際食文化コース」があり、「製菓衛生師」の受験資格が取れるので、行きたいと思います。



イラスト 埼玉県立新座総合技術高校 デザイン専攻科1年 小林 吉春

## 燃える青春



竹林が風にそよぐ。洛西の静かな風景に溶けて建ち並ぶ京都明徳高校を訪ねた。校舎は全館冷暖房、光ファイバー幹線によるコンピュータネットワークの近代施設を備えていた。写真部の部室は本館1階のこの部でただ一人頑張っている部長・梶丸真嗣君の活動状況を見せてもらった。



梶丸君の引き伸ばし機操作は鮮やか



折りを込めてシャッターを切る梶丸君

## 部活動拝見 写真部長

### 京都明徳高校3年 梶丸 真嗣君 (17)

繊細さや微妙な味があり、自分の感じたものを表現するのは難しいが、カラー写真では感じられない独特な感情が伝わってくる。写真部入部の動機は、新入生歓迎会の部活紹介。入ってみると上級生の部員は2、3年それぞれ一人だった。だけど先輩や先生の親切な指導で、好きな写真を撮ったり、暗室作業でいろいろなことを覚える日々は充実していた。

文化祭のテーマは「生物」と決められた。地球上の生物、動物が植物の中かから生きていく物をついに絞って選んできた。自分思いを生物を通して表現したい。自分の思いを生物を通して表現したい。自分の思いを生物を通して表現したい。



04' 文化祭作品「駐車場の花」



03' 神戸合宿、右から梶丸君、渡辺先生、先輩

「写真は通じて人に伝えたい。絵はがきみたいな写真にならないように。自分の感じたことを写真に撮ろう。先生の教えを忘れず、自分が写したいと思っただけにシャッターを押す。『自然や花をきれいに撮ろうとする瞬間が楽しいが、本当に感動するのは、暗室で白黒写真を現像し、引き伸ばし機で思い通りの写真を焼き付けることができたとき』という梶丸君。デジタルのカラー写真よりも、白黒写真に心を引かれる。白黒写真には、濃淡の

熱い思いが表れてほしい。担任の加藤周平先生(27)も「物事を一つ一つ熱心に取り組み勉強もまじめ。一人でよくやっているなあと感じていた。文化祭の作品はいい写真だと思った」温かい目で見守っている。梶丸君は小4の時、父を交通事故で亡くし、母と姉の3人暮らし。大阪府島本町から電車とバスで京都の学校まで通学しており、根性がある。将来は、専門学校に進んで栄養士を目指す。社会人になっても写真は趣味として続けたいが、そのためにも後輩に写真部を引き継ぎたい。



### 中根 晃 (元実践女子大学教授)

考えも及ばなかったような事件が報道される毎日である。はじめは特別な人物の起こした例外的な事件のように思えるが、類似の事件が続発するようになると、私たちの身の周りにも心のフレイキの利かない人がいるのではと不安になる。大分前、友達を誘ってまさかと思うような逸脱行為をした小学校6年生の女子が話題になったが、1年前にはやはり6年生の女子が友人を殺害した事件が起こった。こうなると何らか

自己抑制と自己統制 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

燃える青春 梶丸君に会うまでは、どんな活動ぶりか少し心配だったが、写真部には顧問の渡辺正弘先生(43)という強い味方がいた。中学のとき写真部を作ったという先生は、白黒(銀塩)からカラーまで写真についての造詣(ぞうけい)が深く、この部でただ一人頑張っている部長・梶丸真嗣君の活動状況を見せてもらった。

燃える青春 梶丸君に会うまでは、どんな活動ぶりか少し心配だったが、写真部には顧問の渡辺正弘先生(43)という強い味方がいた。中学のとき写真部を作ったという先生は、白黒(銀塩)からカラーまで写真についての造詣(ぞうけい)が深く、この部でただ一人頑張っている部長・梶丸真嗣君の活動状況を見せてもらった。

燃える青春 梶丸君に会うまでは、どんな活動ぶりか少し心配だったが、写真部には顧問の渡辺正弘先生(43)という強い味方がいた。中学のとき写真部を作ったという先生は、白黒(銀塩)からカラーまで写真についての造詣(ぞうけい)が深く、この部でただ一人頑張っている部長・梶丸真嗣君の活動状況を見せてもらった。

燃える青春 梶丸君に会うまでは、どんな活動ぶりか少し心配だったが、写真部には顧問の渡辺正弘先生(43)という強い味方がいた。中学のとき写真部を作ったという先生は、白黒(銀塩)からカラーまで写真についての造詣(ぞうけい)が深く、この部でただ一人頑張っている部長・梶丸真嗣君の活動状況を見せてもらった。

## シリーズ 心の病気 (36)

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員

シリーズ 心の病気 (36) 育兒中の母親を支えるシステムが重要な現代社会であるが、昔はそれが家族であった。母親が仕事で忙しい時には祖父父母が留守番をする。子どもがぐずればコッスを伝授し、学校から帰ってきたきょうだいが子守をする。いわば、家族全員